

令和4年度(2022年度)体験活動ボランティア派遣事業

活動の足あと

1 実績について

(1)登録チーム数・登録者数

20チーム・121名

派遣回数・派遣ボランティア数

48回・61名

(2)派遣先

玉名：万田小、六栄小、腹赤小、長洲小、清里小、岱明太陽っ子第2クラブ

菊池：大津東小

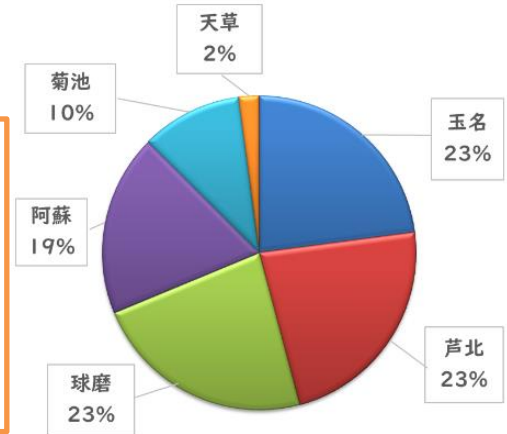
阿蘇：阿蘇小、阿蘇西小、波野小

芦北：佐敷小、湯浦小

球磨：西小、一武小、相良北小、渡小、一勝地小

天草：維和小

体験活動ボランティアチーム派遣先



主な活動プログラム

- ・工作・ニュースポーツ・落語・読み聞かせ・レクリエーション・科学実験遊び
- ・バルーンアート・楽器を使った遊びなど



2 主な活動内容と依頼者の感想(報告書より抜粋)

■落語(派遣チーム:つばなれの会)

コロナ禍前には、毎年来ていただいていた。小噺は1年生から指導員までどの年代でもわかりやすく楽しめる内容だった。落語独特の扇や手ぬぐいを使った動作、地域や学校の名前が入ったアドリブ等で子どもたちはどんどん話に引き込まれ、笑い声があふれる楽しい体験となった。



■バルーンアート(派遣チーム:バルーンアートの熊おじさん)

最初は上手に風船をつかめなかったり、割れないかびくびくしたりしていたが、1つ目の作品「犬」を完成させると不安もなくなり、次の「剣」を早く完成させたいと大胆にひねるようになっていった。剣が完成するとチャンバラごっこが始まり大好評だった。「最初は難しいと思ったけど楽しかった。」などの感想が聞かれた。



■読み聞かせ(派遣チーム:テアトロあまくさ朗読チーム)

いつも元気な子供たちが、お話が始まると、絵本の挿絵に注目し、たちまち引き込まれて聞いていた。『誰のパンツ』のようなユーモアあふれる本から少し切ない本まで、計4冊の読み聞かせはあっという間だった。お話を聞いた後は室内ゲームを行った。本の世界にふれるととてもいい時間となった。



■科学実験遊び(派遣チーム:わくわくドキドキ・おもしろ科学遊び)

日常生活で使うものを使っての科学遊びだったので、子供たちも伸び伸びと取り組むことができたと思う。また、解説もとても分かりやすく、「あー(なるほど)」「ふーん」「へえー」と、たくさんの声が上がった。手作りの教材で、子供たちはとても楽しんでた。



■ニュースポーツ(ボッチャ)(派遣チーム:一般社団法人 Arts and Sports for Everyone)

「ここに投げたらいよいよ。」「この玉を押し出したらいいかも。」などアドバイスを受けることで、自分たちでも作戦を立てようとする姿が見られるようになった。また、聖火ランナーのトーチを見せていただいたり、上天草市で障がい者スポーツに携わっている方などを紹介していただいたりしたことで、スポーツに対する興味・関心が高まった。



■楽器を使った遊び(派遣チーム:あそBe隊)

講師の方の自己紹介から楽しいトークに引き込まれ、大きな笑い声が響き渡った。子供たちは、準備された楽器にも興味津々で、初めて見るオートハープについて仕組みを教えてもらったり、演奏に合わせて一緒に歌ったりと、楽しく参加していた。ハーモニカやリコーダーを鼻で演奏された時には笑いも起こったが、その音色に驚きを見せ、演奏が終わると、大きな拍手が鳴り響いた。



■工作(派遣チーム:熊本県立菊池少年自然の家 学びの杜 清流)

木に穴を開ける活動はスタッフで行い、発達段階に応じた作業とすることで、スムーズに進めることができた。児童たちは、出来上がった作品をお互いに見せ合い、よさを伝え合っていた。「みがくのが大変だったけど、絵を描くのが楽しかった。」「つるつるになってうれしかった。」などの声が聞かれた。



■工作(派遣チーム:熊本県立豊野少年自然の家 とよドン家)

コルクのコースターに、松ぼっくりとどんぐりをホットボンドでくっつけ、ポスカで色塗りをしたり、キラキラのビーズ等でかわいく飾ったりして、**児童それぞれが素敵な作品を仕上げることができた。**季節に合った作品で、児童達もお迎えに来られた保護者さんも、その**仕上がりに満足していた。**



■レクリエーション(派遣チーム:熊本県立あしきた青少年の家 うたせの丘)

フリスビー体験では、投げ方を学んだ。**初めはなかなか飛ばなかったが、次第に上手になり、お互いにキャッチできるまでになった。**ドッチビーも楽しんだ。今回は初めての体験が多く、**達成感も味わえてとてもよかった。**野外活動は子供たちのエネルギー発散となり、全員が声を揃えて**「楽しかった」と**言っていた。



■レクリエーション(派遣チーム:国立阿蘇青少年交流の家 あそビーノ)

「あそびんぴつく」と題して、いろいろなゲーム活動を行っていただいた。ゲーム的要素が満載の活動で、**子供たちがお互いに豊かに関わり合う場面があり、とてもにぎわっていた。**青少年交流の家の方も、普段からこのようなレクリエーション活動に多く携わられており、子供たちも**安心して活動することができた。**



■外遊び・レクリエーション(派遣チーム:熊大社会教育研究室)

児童たちは、**普段接することのない大学生に興味津々**で、自己紹介では、たくさんの質問をして交流を図っていた。天気も良かったので、「警ドロ」や「だるまさんがころんだ」等をして更に親睦を深めた。ある児童は男子学生からひと時も離れず、**「帰らないで。」と別れを惜しんでいた。**全児童が**「時間が足りない。」「もっと一緒に遊びたい。」**と懇願し、充実した時間を過ごせたようだった。



体験活動ボランティア派遣事業は、子供たちへ豊かな体験活動を提供し、放課後子供教室と放課後児童クラブの一体的な取組の推進と子供たちの豊かな人間性の育成を図っています！